

令和 5 年度上京区民まちづくり会議「上京！MOW」 実施報告書

日時： 令和 5 年 10 月 2 日(月)18:00-20:00

会場： 京都信用金庫西陣支店 クリエイティブcommons NISHIJIN



上京区役所では、「人や団体がつながる場」として「上京区基本計画 2025」に掲げるまちづくりの将来像をテーマに、上京区民、上京区内でまちづくり活動をしている団体の皆様と意見交換を行いました。

45名の参加者が6つのグループに分かれ、個々が取り組んでいる活動や興味・関心のあることを伝え、聞き合いながら、共通の課題に対する話を深めたり、一緒に何かできるかとアイデアを出し合ったりしました。その後、グループ発表を通じて、意見やアイデアを全体で共有しました。





挨拶(新川議長)



挨拶(三輪支店長)

プログラム

- 18:00 挨拶
新川達郎 上京区民まちづくり会議議長
三輪文彦 京都信用金庫西陣支店長
- 18:05 上京区基本計画 2025
上京区民まちづくり活動支援事業「上京！MOW
部門」説明
- 18:20 ワークショップ: 基本計画に掲げる将来像をテーマ
としたアイデア提案・意見交流
＜テーマ＞
- 1 暮らしに息づく文化の継承
 - 2 安心して暮らせるまちづくり
 - 3 「西陣」の活性化
 - 4 産業・商店・観光によるにぎわいづくり
 - 5 地域ぐるみの子育て支援
 - 6 生涯にわたる健康づくり
- 19:25 グループ発表・振り返り
- 19:50 総括 (新川議長)
- 20:00 終了

ワークショップ

テーマ1 暮らしに息づく文化の継承



継承していけば良いかについて話し合いました。

地蔵盆は、伝統行事であり、町内の人が集まる交流の場であるという2つの側面があります。7名中5名が今年地蔵盆を行い、「地蔵盆を初めて担当し、コロナ禍に中止していて流れが分からず、昔の動画を参考にしました」「小学生だけでなく中高生にも呼び掛けました」「大学生に運営を一部協力いただき、参加した子どもが楽しんでいました」等、各町内での試みが伝わりました。

また、今と昔の様子を振り返るとともに、集合住宅での地蔵盆、地蔵盆の備品管理の仕方等、時代の変化に合わせてどのように

＜意見の一例＞

- 中高生が友達同士で地蔵盆に参加できるように、おやつにアイスクリームを用意しました。
- 地蔵盆の時期に人形劇の上演をするために呼ばれ、自分たちも数珠回しを体験することができました。
- 地蔵盆の話題になると話が尽きないということは、大切に思っているからでは。

テーマ2 安心して暮らせるまちづくり



誰もが安心していられる場所、行ける場所があることが大切だとして、上京区内で生きづらさを抱える少女の支援を行う「京都わかくさねっと」の活動を切り口に、地域でのつながりづくりや居場所・物件探しについてアイデアを出しました。西陣の朝市マルシェや乾隆・正親・中立学区で行われている「立売」、ふれあいカフェ等の地域行事が紹介され、少女が手伝える部分があるかを考え、「個人の所有となる空き家の活用は難しいけれども、まずは改装された物件から探してみてもどうか」との提案がありました。

地域活動に携わる人たちが互いにつながり合い、顔が見える関係性を築くと、結果として安心安全に暮らせるまちになるのでは、と活動を通じて輪を広げることの良さを共有しました。

<意見の一例>

- 若い人に学区行事に参加してほしいのですが、掲示板での周知では、若い人は見ないかもしれません。
- 幼稚園の行事では、少年補導や女性会が託児をしています。
- 地域の人と知り合うと安心できます。

テーマ3 「西陣」の活性化



西陣エリアで綴織の体験教室やマルシェ、イベントを運営している参加者が、それぞれの取組を話した後、「より多くの人に西陣エリアに足を運んでもらえるイベントを開いて、各団体の連携を図ろう」という意見が出ました。「天神さん」のある25日のうち、土・日曜日に当たる日を選んで、西陣エリアで様々なイベントを試みよう」「個々のイベントをつなぐスタンプラリーを作ってみよう」と具体的に話が進みました。

<意見の一例>

- 綴織の体験プログラムは、文化に触れ、子どもにも知ってもらう機会になっています。
- マルシェでは、テーマを持ち、全体を仕切る人が必要で、個性をしっかりと出す方が良いと思います。
- イベントを行う場所にある地域、学区とつながると良いのでは。

テーマ4 産業・商店・観光によるにぎわいづくり



参加者同士で活動を紹介する中、「集客に悩んでいる」との声に対して、チラシを置ける場所を伝えたり、「子どもが対象なら児童館や保育所、学童に声を掛けてみては」とアドバイスを得たりするやり取りがありました。

「上京区には様々な拠点があり、その拠点同士がつながりたいと言いながら、つながれないのはなぜだろう」と探る中で「自分のところに人を集めることに熱心になって、自ら好奇心を持って相手のところに足を運ぶことをしないからではないか」と気づく場面もありました。

<意見の一例>

- 子育て支援をしています。お母さんは話を聞いてもらうだけで表情が良くなります。話を聞いてもらえる場所があちこちにあると良いですね。
- 情報交換の場では、各自のイベント告知で終わってしまい、団体同士がつながれていません。
- 千本通のシャッター化が気になります。新規開店もあれば撤退もしています。一店舗ではまちを変えられません。足並みを揃えて一気にオープンできるとにぎわいにつながるのでは。

テーマ5 地域ぐるみの子育て支援



自己紹介後、一人ずつこのテーマを選んだ理由と自身の活動や関心のあることを伝え、質問し合いました。

学区行事の一つである子ども花火大会や学童の運営、ひとり親と子どもの支援の一環で行われている学習会と子ども食堂、大学生によるボランティア活動が紹介されました。

居場所づくりでは、監視・管理・コントロールしないこと、誰が来ても良い感じ、見守る人がいる、何もしなくても良い感じ、ご飯がある場等は居心地が良く、子どもも行きたくなるのではという意見が出ました。

<意見の一例>

- 上京区にどんな居場所があるか、子育て支援の特色を知りたいです。
- 子どもが喜び、学び、親・高齢者と共に遊べる場所づくりに関心があります。
- 学童に子どもを通わせたことをきっかけに、地域の子どもと触れ合う楽しさを知りました。

テーマ6 生涯にわたる健康づくり



健康づくりのためのウォーキングや体操、認知症カフェ等各自が主催する活動を伝える中で、広報が話題になりました。

具体的には、チラシや口コミ、新聞のほか、上京区民まちづくり活動支援事業によって信頼を得る、地域のキーマンとなる人とつながる等、実践していることや工夫していることを話しました。

地域包括ケアシステムを進める一方で、特別養護老人ホームのベッド数増床を進めることから生じる施策の矛盾や、ベッド数が余っている状況等を共有しました。

<意見の一例>

- 高齢者を切り離さず、全世代で「生涯にわたる健康づくり」を考えていく必要があります。
- 健康づくりにつながる地域活動を継続的に支援してほしいです。
- 京都の介護率をなんとかしたいです。自分でやってみたいです。

新川議長の総括



テーマ1では、地蔵盆を話題にしながら、地域の財産と言える暮らしの文化をどのように守り、受け継ぎ、育てていけるのか、そのための工夫や課題について話し合われました。

テーマ2では、誰もが様々な不安や悩みを抱える中、一人一人の気持ちや互いの関わりを大事にできる関係づくりを目指す活動が上京区にあってもいいよね、と教えられた気がします。それぞれの町内、学区、地域で関係づくりを見直して、安心して暮らせるまちを考えていただければと思います。

テーマ3では、西陣エリアで、新しく、魅力的で、多くの人が注目するような活動が生まれているようで、団体間の連携を進めようという展開が見られました。テーマ4と共通しますが、今は個々に行われているマルシェ等のイベントをどのようにつないでいくのが、今後のにぎわいづくりのポイントになりそうです。

テーマ5では、意見交流の中で、地域の中で子どもがより良く育つ場は作れているだろうかという問題意識を共有されていたように思います。子どもが思いを自由に伝え、身近にいる大人が子どもの声を聞けるまちになれば、子どもは幸せを感じて暮らし、やがて未来を支える人になるのではないかと思います。

テーマ6では、一人一人が日々の暮らしの中で心と身体の健康を心掛けて過ごすことが大切で、健康づくりを真剣に考えていただきたいということが共通の願いと受け止めました。

地域の文化を地域の中でどのように受け継いでいくのか、地域の全ての人を誰一人取り残さない形で、みんなが生きやすい地域をどのように作っていくのか。子どもの成長や生涯にわたる健康づくりを、それぞれの地域で実践しながら考えていければと思います。

ワークショップの振り返り・感想

- 一生住み慣れた場所で暮らしたい！
- どのテーマもたくさんの意見が出ていたのでびっくり！声が出せることはスタートになり、その声が届いて形になるのがゴールですね！
- 普段関わることがない方々と交流する機会になりました。たくさん刺激をもらいました。
- 地蔵盆について深く知らなかったので、地蔵盆に対する課題を知る機会になりました。その課題から、京都の文化について学ぶことができました。
- 地域活動に新しく参加していただける方々との接点をもっと考えたいです。
- マルシェを通して地域をつなぐことを学びました。
- 地域と一緒に交じり合うところに壁があると思いました。慣例を上手に踏襲しつつ、スピード感をもってできないかな。
- それぞれができることを知れたことで、これからの活動にいかしていきます。具体的に進行できればと思います。
- 未来が見えてくる希望が持てそうで、参加して良かったです。次につなげられそうです。
- 上京区には、色々な人の活動が存在することが改めて分かり、情報がより良く行き渡るような仕掛けがあると、楽しくなると思いました。
- 皆さん、色々な活動をされていて勉強になりました。点を面につなげるにはどうすればいいか、様々な側面から提案があって、なるほどと思いました。
- 学生ボランティアさんとの交流ができて良かったです。
- 人の話を聞くことって実はなかなかできていません。そのような場が必要です。
- 基本計画の中間点検の場も必要だと思います。
- 様々な活動をされている方がいておもしろいので、団体間や地域とのつながりができればより良いと思います。
- 中学生や高校生の居場所に関心の高い方が多数おられて驚きました。